



その一言で、わが子のやる気が変わります

～実は『トライアルの感想文』がとっても重要なんです・・・～

MACはこの春、多くの仲間たちが入塾してくれました。特に新小学1年生は3月から来てくれている子もあり、最初は大きなお姉さん・お兄さんと一緒に学ぶ環境に戸惑っていましたが、やっと塾にも慣れ「自学自習」のスタートラインに立っているのではないのでしょうか？

昨年の4月号も同じような内容を書きましたが、この春に入塾された方はMACについて理解を深めて頂き、入塾して何年も経つ方は再確認の機会にして頂ければと思います、「感想文を書く意味」について再度書かせて頂きます。

一つ言えることは、お子さんを「もう～、早く宿題しなさい！！」と言う必要のない、勉強好きな子に育てるには塾だけではなくご家庭の協力が必須だということです。実は毎月お願いしている**育脳トライアルの感想文を書く時のお母さんの対応**がお子さんを勉強好きにさせるか否かを大きく左右さ

せるのです・・・こう言われるとプレッシャーですね・・・(笑)

なぜ親が「感想文」を書かないといけないの！？

MACでは育脳トライアルが終わる度に生徒本人、保護者さんに感想文を書いて頂き、その提出がないと次の一冊をもらえないというルールにしています。

なぜ保護者が感想文を書く必要があるのか、その理由は大きく2点あります。

①「**お子さんの学習意欲向上の為**」
育脳トライアルは月間教材となっているので、ほぼひと月に1冊のペースで進みます。お子さん本人からすれば、ひと月かけて一冊のテキストをやり終える事は非常に大きな達成感・満足感を得ることができます。さらに保護者がそのテキストを見てくれて、感想まで書いてくれれば「よし、次も頑張ろう！もっとたくさん〇をもらえるようにしよう」と、学習意

欲が増すのです。保護者が感想文を書いてくれる＝ちゃんと自分の事を見てもらっているという安心感から、良い学習習慣を身に付けられるようになります。

②「**わが子の成長を把握して頂く為**」
「うわ～、うちの子この問題に対してこんな答え書くんだと、子どもの内面を垣間見た気がしました。」という感想文を頂いた事がありました。

子どもたちは日々成長しています。毎月、毎月子どもたちの解き終えた育脳トライアルを見ていると、日々の成長がはっきり見えてきます。書く文字、思考力、発想力など。このちょっとずつの成長をしっかりと感じ、見守ってあげて欲しいのです。

大人はどうしても目に見えて分かる結果（テストや成績など数字で表せるもの）を求めがちです。しかし、子どもたちの「ぐっと伸びる時期」は本当に様々です。小学校中学年くらいで一気にお兄さんお姉さんに

なったなという子もいれば、高学年で急に勉強ができるようになったな・・・という子も、中学に入っている時期から一気に成績が上がった・・・など10人いたら10通りなのです。

すぐに結果が出ていないからといって、今取り組んでいることを否定しないようにして下さい。保護者がそうすると子どもは根気強くひとつの事に取り組めなくなります。

『すぐに役立つことは、すぐに役立たなくなる』

これは伝説の教師と言われた灘高の橋本武先生の言葉です。今はインターネットによって、たいいていの知識は検索ですぐに得られる時代になっています。こういう時代に大事なことは、効率的にたくさんの知識を詰め込むことではなく、少しでも興味、関心があったら横道にそれて、自分で調べ、自分で考え、理解し、その知識を自分の行動に役立てていくことだと思います。

そうして得た知識、知恵、経験といったばらばらの点だったものが次第に繋がって、線になり、面になり、確実な自分の力になっていきます。つまり、将来的に本当に役に立つ力はすぐには身に付かないし、なかなか目にも見えにくいものなのです。

今の子どもたちはまさにその作業の真っ最中です。すぐに結果を求めるのではなく、長い目で見

守ってあげて下さいね。

感想文を書く際のお願い

さて、冒頭の「育脳トライアルの感想文を書く時のお母さんの対応」の件ですが・・・。我が子に感想文を頼まれた時、どのようなリアクションをされていますか？

「よし、じゃあ一緒に見返そうか？どうしてそんな答えになったか教えて！」

というようなやり取りでしょうか？はたまた、

「え、また～？面倒臭いなあ。後で書いておくからそこに置いておいて！」

でしょうか・・・。提出頂いている感想文は必ず全てに目を通しています。気になることが書かれている場合は、お手紙で返事を書くこともあります。（正直感想文を読ませて頂いていると、感想文を書く際にどのようなやり取りをされているか、だいたい見えてきます・・・笑）

少し想像してみてください、感想文を親に頼む時の、お子さんの気持ちをは・・・。

もし後者のような対応の場合、自分がひと月頑張ってきたことに興味を持ってもらっていないと感じ、別に次の一冊もじっくり見てもらえないだろうから、適当にしておこう・・・。となりませんか？前者の場合と後者の場合、どちらの方が子どもを勉強好きにさせる対応であるかは明らかですよね。

1週間を分に直すと10,080分になります。その中MACに来てもらっている時間は小学生ならせいぜい80～160分程度です。残念ながらMACにいる時間だけで、子どもを勉強好きに変えてあげられる魔法はありません。

子どもはお母さんが大好きです。子どもを勉強好きにさせるかどうかは多くの時間を一緒に過ごすご家庭（特にお母さん）の対応にかかっているのです。ご家庭で勉強を教える頂く必要はございませんが、感想文を書く際のやり取りは大切にしていきたいと思います。

一緒に育脳トライアルを見返す際は、答えの間違いを指摘するのではなく、お子さんの説明に感動し、驚いてあげて下さい。そして、その際に大切な事は、お子さんの眼を見て説明を受けて頂くことです。

保護者さんは本当にお忙しい日々だと思います。（私にも小学生の子が二人いるので、毎日子どもと向き合ってくれている妻には本当に感謝しかありません）しかしお子さんを勉強好きにするための、月に5～10分程度の時間です。ぜひこの感想文を書く時間が「苦痛」ではなく、子どもと共通の話題で話ができる「至福」の時間にして頂きたいのです。

感想文を書く時間がお母さんにとって「至福」の時間になった時が、子どもが勉強好きになる時です。お母さんの力で我が子を勉強好きにしてあげられるよう、今後ご理解とご協力のほど、どうぞ宜しくお願い致します。